

ゼロが17もついたインフレ切手ご存知？

平岩道夫 (切手評論家)

火災、震災、いずれも防災には、驚くほどの“お金”がかかるものだ。

そこで本号では、“インフレ切手”と呼ばれる“変わりダネ切手”を紹介してみよう。

インフレといえば、まっ先に頭に浮かぶのが“戦争”——。かつての日本も戦後の一時期、たいへんなインフレに悩まされたものである。

“インフレ切手”なるものを発行している国としては、ギリシャ、ドイツ、ベルギーなど、いろいろあげられるが、なかでもハンガリーの“インフレ切手”は代表的な存在。

ハンガリーのインフレは、1923年のドイツのそれを破り、これまでにない記録を樹立したのだから、世界が驚いた。

ハンガリー郵政当局は、どんどん上がっていく金額(数字)をズバリ切手の図案に入れてしまうことを思いつき、ハトが封筒をくわえ、そのなかに“額面”を表示する手段をとった。

50万ビリオペンゴ=50京(1ビリオペンゴは1兆ペンゴ)。これでもまだピンとこないなァーという向きに、算用数字でお目にかけてよう。

500,000,000,000,000,000

よくご覧になれば、イヤ、とくと数えていただければおわかりのように、ナント、5の下に17もゼロをつけることになる。



もっとも日本の切手商では、この切手を1枚数百円で売っているので、心配することはない。

世界の切手のなかには、こんな奇妙な切手もあるのだから面白い。

〔朗報！〕平成2年度に“電気機関車シリーズ切手”がお目見え——

消防自動車や救急車を描いた切手をはじめ、乗り物切手をコレクションしている向きにうれしいニュースがある。

郵政省では、平成2年度の新シリーズとして“電気機関車シリーズ切手”の発行を決めた。

第1集の発行は1月31日で62円2種。切手の題材は初の実用機関車10000型、それにもう1種が戦後の機関車を代表する機関車EF58型。切手の大きさは縦25ミリ、横35.5ミリ。発行枚数は各3,000万枚。続いて第2集は2月に発行が予定されており、第5集まで続くことになっている。